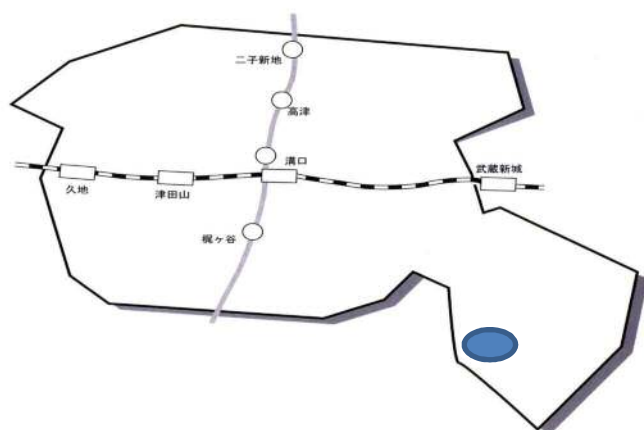


野川中耕地自治会 高齢者見守りについて

～見守りマップ作成から見守り活動へ～

1 町の概要



- ・自治会は220世帯で、地域の85%が加入している。
- ・自治会の組織は、会長、副会長、役員7名、班長14名の23名で運営し、下部組織は自主防災組織のみである。
- ・220世帯を7グループに分け、1グループごとに役員1人と班長2人を配置している。
- ・活動は、自主防災訓練、盆踊り、子供向け映画上映、夏休み期間中はラジオ体操を実施している。

【DATA】

- 世帯数 220 世帯
- 人口 700 人
- 70歳以上の人口 16.7%

2.見守り活動立ち上げのきっかけ

○ 災害への備えとして

野川中耕地自治会は、尻手黒川道路の野川交差点周辺から、東名高速川崎インター左側の矢上川沿いにある。以前、矢上川が氾濫したことや東日本大震災の時の教訓から自治会長は災害への備えをしたいと考えた。防災の観点から、安否確認のために日中独居の高齢者の情報を把握する必要があるため、高齢者の見守り活動を立ち上げることとなった。

3. 活動立ち上げの経過

○自治会役員会を中心に

- ・H27.6.4 役員会にて、地域で高齢者を見守る必要性について自治会長が説明。年4回の募金の集金の時に、班長が各世帯の状況を把握し、住宅地図にその情報を落とし込むこととした。
- ・H27.7.18 班長、自主防災組織に高齢者見守り体制の構築について説明し、了解を得た。
- ・H27.10～H28.2 赤い羽根募金の集金の時に、高齢者の状況について聞き取りを始めた。
- ・H28.3.13 自治会の会合にて、心配な高齢者15名を地図に落としこみ、見守りマップが完成した。

4. 高齢者の見守りの方法

- ・心配な様子的高齢者を役員、班長がさりげなく見守る。
- ・何か変わった様子が見られた際には、班長 → 役員 → 会長に連絡する。
- ・会長が状況を確認し、地域包括支援センターに連絡する。
- ・地域包括支援センターは、訪問等により状況を確認し、介護サービスの利用など必要な支援につなげる。

5. 活動の広がり

4月の総会後に、年に1回マップの情報を更新することとなった。役員が交代した時にも、引き継ぎがされ見守り活動は継続して行われている。月に一度の会議の場では、各班長より各自の見守り対象者の動向について情報共有がされている。

6. 見守り体制を立ち上げてよかったこと、今後の課題

- ・班長、役員さんから姿がみえない、雨戸が閉まったままという、気になった方の情報が会長に入るようになった。その後、家族の方から施設に入所されたという連絡が入り、状況を把握し、安心することができた。
- ・個人情報の問題、特に認知症の一人暮らしの方をどのように見守るかが今後の課題である。